

令和4年11月25日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

会 派 名 石巻颯の会
代表者氏名 会長 西 條 正 昭

政務調査報告書

次のとおり政務調査を行ったため、その結果を報告します。

記

- 1 調査者氏名 西條正昭、後藤兼位、阿部正敏、山口荘一郎、宇都宮弘和
我妻久美子、谷祐輔
- 2 調査期間 令和4年11月8日(火)から
令和4年11月19日(土)まで
(当初の調査期間は令和4年11月8日から令和4年11月11日までだったが、視察先で新型コロナウイルス感染症に感染し、行動制限を受けたため、調査期間が延長となった。)
- 3 調査地及び調査内容
 - (1) 島根県雲南市「地方創生の取り組み」について
 - (2) 島根県美郷町「空の駅構想」について
 - (3) 山口県萩市「へき地での薬剤師兼務」について
(山口県萩市の視察は新型コロナウイルス感染症により、視察中止)
- 4 調査目的
 - (1) 島根県雲南市
雲南市は平成27年に策定した第1期雲南市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、他市町村への転出などによる人口減少に対応するための取組を進めている。特に「子ども×若者×大人×企業チャレンジ」においては、社会課題の解決と市民生活の向上に向け、地域による次世代人材育成を進めており、人口減少や地域のつながりの希薄化は本市での課題でもあることから、雲南市の取組を調査する。
 - (2) 島根県美郷町
美郷町は、集落が点在し、車の無い高齢者の買い物や通院の課題、配送ネットワークの維持の課題に対応するために、「災害に強いまちづくり」と「不便の少ないまちづくり」の構築を目指し、物流、防災等の各分野でドローンの利活用の検討・推進を始めとした「空の駅構想」に取り組んでいる。
本市も半島地域などは集落が点在しており、今後、美郷町と同様の課題が懸念されることから、空の駅構想の取組を調査する。

5 調査概要

(1) 島根県雲南市「地方創生の取り組み」について

① 雲南市総合戦略～「人口社会増」への挑戦～

<重点戦略1>子育て世代の流出抑制と転入増を図る「定住基盤の整備」

子育て環境の充実・仕事への支援・住まい施策の強化・移住定住の促進の4つを掲げ「UNNANN 子育て応援会議」や「ママの働き方セミナー」を開催

<重点戦略2>地域課題解決にチャレンジする「人材の育成・確保」

「子ども×若者×大人×企業チャレンジ」の連鎖による持続可能なまちづくりとして、

・将来を担う人材を育む子どもチャレンジ

(子どもたちの主体性を育む「中高生の！幸雲南塾」)

・地域の未来をつくる若者チャレンジ

(若手人材を掘起しネットワークする「幸雲南塾(大人版)」)

・地域自ら地域をつくる大人チャレンジ

(地域住民で運営する商店「はたマーケット」)

・地域と企業との協働企業チャレンジ

(ラストワンマイルの課題解決「グリーンスローモビリティ」)

上記の重点戦略のもと「人口社会増」と「課題解決先進地」、さらに「人口減少の克服」と「成長力の確保」へつなげている。

② 子どもチャレンジについて

教育魅力化コーディネーターを派遣する「中高生の！幸雲南塾」をNPOと協力開催し、学校教育と社会教育の充実を図る。また、学校を離れた地域フィールドワークで地域を訪れ、直接観察や関係者から話を聞いて問題点を考察し、解決策を探る活動を行うなど、学校では学べない情報を直接現地で集めている。



<アンケート調査>

Q. 雲南市のことが好き(高3)

A. 92.7%(H30:88.5%、H29:88.1%)

Q. 地域課題に対し、解決策を考え行動(活動)したことがある(高3)

A. 64.6%(H30:56.6%、H29:52.7%)

Q. 将来、雲南市で働きたい(高3)

A. 54.4%(H30:46.2%、H29:46.5%)

Q. 将来、雲南市に住みたい(高3)

A. 66.8%(H30:60.6%、H29:60.4%)

③ 地域と学校の協働による教育魅力化について

地域だからこそできる豊かな資源を活かした学校と地域や社会をつなぐオリジナルの教育プログラムで、チャレンジする大人との出会いを作り、高校生の主体性を引き出す探究的な学びの機会を届けている。大東高校、三刀屋高校、三刀屋高校掛合分校で実施され、これまで年間400人以上の地域の大人が参画している。

<雲南式探究プログラム>※教育委員会を中心に実施

雲南市の強みであるチャレンジする大人や地域のフィールドを知り、感じ、出会い、協働する。他者の意見を受容し、壁にぶつかる経験を繰り返しながら、自己の強みに対する認識を地域のなかで深めていく。

- 地域を知る・・・地域の大人の人生を学ぶ「社会人カタリ場」
- 地域を感じる・・・地域チャレンジとの出会い「地域フィールドワーク」
- 行政を知る・・・雲南市の事業を題材に学ぶ「SIMULATION 雲南」
- スペシャルチャレンジを実践する
・・・地域とともにチャレンジ「地域課題研究・未来創造究」

④ 若者チャレンジについて

・「幸雲南塾」

学びと実践を繰り返す機会を通じ、地域を良くする成果を継続して出す人材（ローカルチャレンジャー）を育成し、地域に必要な新事業を生み出す“起業創業塾”

起業事例①・・・NPO おっちラボ

(2013年「おっちラボ」設立。2014年NPO化。地域で若者のチャレンジを支援する。「中間支援組織」の誕生)

起業事例②・・・コミュニティケア

(訪問看護ステーション「コミケア」、若手看護師3名で創業、現在14名に雇用拡大)

起業事例③・・・コミュニティナース

(「人とつながり、まちを元気にする」コミュニティナース地域の人の暮らしを身近な存在として「毎日の楽しいや嬉しい」をまちの人と一緒に作り、「心と身体の健康と安心」を実現する。)

起業事例④・・・ショッピングリハビリ

(看護予防×買い物支援、駅近くのショッピングセンターの空き室を利用し運営。普段の生活の中でリハビリを行う)

起業事例⑤・・・イノシシ肉の加工・販売

・雲南コミュニティキャンパス

全国から約460名(77大学)の大学生がチャレンジ。

・五感で感じる雲南ツアー

雲南出身の大学生が、地元に関わり続ける同世代の仲間を増やしたい思いから、地元を離れる高校3年生に向けた「地元の魅力再発見ツアー」を企画

<若者チャレンジの実績>

約90名の新規雇用

約9億円の経済波及効果

約200名のローカルチャレンジャー輩出

プラチナ大賞“総務大臣賞”受賞(幸雲南塾の取り組み)

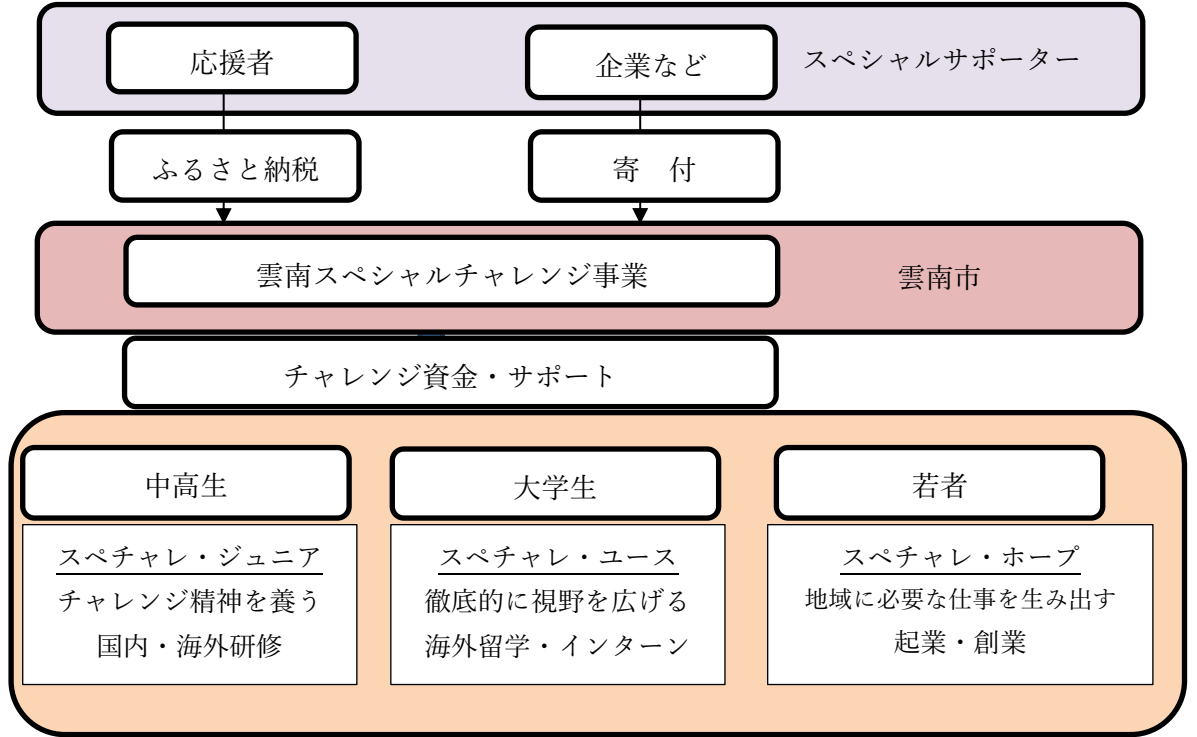
安倍前首相の所信表明演説での紹介

地域再生大賞“準大賞”を受賞(H29 NPO法人おっちラボ)

日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー受賞

(幸雲南塾1期生が「コミュニティナース」育成事業で受賞)

- ⑤ 雲南市スペシャルチャレンジ制度について
 意欲ある子ども、若者にチャレンジ資金を提供する制度。
 （雲南の未来をひらく特別なチャレンジ「スペチャレ」。）



- ⑥ 大人チャレンジについて
 概ね小学校区域（30 区域）で広域的な地縁組織「地域自主組織」を結成し、“地域でできることは地域で”という基本理念のもとで地域課題を住民自らが事業化し、解決していく仕組み。

取組事例

波多コミュニティ協議会・・・雲南市からの紹介で交流センター内に店舗設置

●買い物

「はたマーケット」の開設

地区内に唯一あった商店の閉店に伴い、地域交流センターの一室に商品棚や冷蔵庫を導入して開設され、福祉事業として喫茶コーナーやくつろぐスペースを設け、外出支援、さりげない見守り活動にもつなげており、移動手段を持たない方には無料送迎や配達なども実施している。

●交通

地域内交通「たすけ愛号」

車を持たない高齢者の方、一人暮らしの方から、手軽に頼める交通機関があれば嬉しいとの要望により「たすけ愛号」の運行を21年度から実施。

（H30年度は1日当たり5.2人の利用）

<「たすけ愛号」の利用ニーズと実績>

- ・「利用したい」と回答した人数（21年度）119名
- ・のべ利用者数（25年度）511名
- ・マーケット開店後ののべ利用者（29年度）1491名
- ・利用用途：マーケット（47%）、交流センター（15%）、温泉（12%）
 その他（診療所、バス停、知り合い宅、ATMなど）

●その他の活動

生涯学習・福祉活動（ふれあい交流会、スペシャル喫茶デー、喫茶デー、温泉ほかほかわくわくサロン）

※安否確認・ひきこもり防止等の場として有効な活動）

⑦ 企業チャレンジについて

企業（域外／域内）が地域と協働しながら社会課題解決・新たな価値創造を目指した様々なチャレンジを行い、社会実装まで目指す取組み。企業との協業による社会課題解決。

目指す姿は「五方良し」

○市民の皆様（幸福度の向上、豊かな暮らし）

○参画企業（新規事業開発、ビジネス拡大）

○未来の参画企業（チャレンジの連鎖）

○雲南市（地域課題解決、持続可能な地域づくり）

○日本・世界エリア（地域発の新ビジネス創造モデルの構築）

第1弾協定／

2019年4月、雲南市・竹中工務店・ヤマハ発動機・NPO法人ETIC.

取組事例① ヤマハ発動機

地域住民やタクシー事業者と連携した地域内の移動サービスの提供
（Slow・Smart・Safetyをキーワードに、低速モビリティを活用した街づくり・地域創生を実現）

取組事例② ヒトカラメディア

空き家を“オフィス（働く場）”にプロデュース“
（シェアオフィス「オトナリ」が、昨年10月オープン）

取組事例③ L I F U L L F a M

子育て連れオフィスの開設
（L I F U L L F a Mが働きたいママを募集し、登録・指導研修を行う。各社から仕事を受託し求人紹介・仕事発注を行う。）

取組事例④ コミュニティナース・日本郵便

（“良いおせっかい”を増やす地域おせっかい会議、難病者の方の外出支援、郵便局での「まちの保健室」健康相談・サロン活動）

取組事例⑤ 住友生命・PREVENT

（“地域の共助の力”で生活習慣病重症化予防）

⑧ 雲南市における「地域活性化起業人」

2019年より下記の企業から計3名がソーシャルチャレンジ特命官出向
（株）竹中工務店・・・雲南ソーシャルチャレンジバレーの推進
企業チャレンジのマネジメント

（株）ヒトカラメディア・・・空き家、遊休施設等の活用推進

地域活動や定住対策、オフィス利用等へ活用プロデュース

ソウルドアウト（株）・・・デジタル化の推進に向けた人材の育成、確保

「子ども・若者・大人・企業チャレンジ」の連携推進

⑨ 雲南市チャレンジ推進条例

2019年4月に全国的にも珍しい「市民のチャレンジを応援する条例」を制定

し、市長が雲南市のチャレンジに対する支援に努めなければならないという責務を明文化している。

⑩ うんなんコミュニティ財団

2020年4月、チャレンジを創出する機能の「市民営化」（まちの未来に必要な事業を市民が熟議（選択）し、助成・投資する仕組み）を目的に、642人、300万円の寄付で設立された。



⑪ コロナ禍における市民のチャレンジ

- ・うんなんコミュニティ財団によるマスクバンク
- ・ICTを活用して市内飲食店を支援
- ・おせっかい会議×ヤマハGSM 高齢者を中心に声掛けや感染症予防対策チラシ配布

⑫ 今後について

社会課題解決の一大拠点をめざす「雲南ソーシャルチャレンジバレー」の構築に向けて、チャレンジ（若者チャレンジ、子どもチャレンジ、企業チャレンジ、大人チャレンジ）の連鎖による持続可能なまちづくりを行っていくとのこと。

⑬ 小規模多機能自治による住民主体のまちづくり（雲南市の地域自主組織）

概ね小学校区域で地縁組織（小規模多機能自治）を形成し、“地域でできることは地域で”の理念のもと、“1世帯1票制”ではなく“1人1票制”方式の運営方式で地域の持続・安心安全の確保・歴史・文化の活用などに取り組んでいる。地域自主組織には、雲南市からの指定管理料（交流センター維持管理費）と地域づくり活動等交付金（人件費・事業費）が毎年交付され（財源は過疎債、全30地域にある交流センターが活動拠点となっている。各地域自主組織の活動事例は以下の通り。

- 事例① うしおっ子ランド（地域住民による預かり保育）
- 事例② 深野神楽こども教室（伝統文化×次世代育成）
- 事例③ ごはんのじかん（豊かな食文化の伝承、笑顔の交流）
- 事例④ はたマーケット（自主組織による買い物支援）（たすけ愛号）
- 事例⑤ 笑んがわ市（JAの空き店舗を活用）
- 事例⑥ 安心生活見守り事業
（まめなか君の水道検針、守る君のまかせて支援事業）
- 事例⑦ 躍動鍋山ささえあい事業
（ちょんてご〜ちょんぼしてごするチーム〜）
- 事例⑧ 高齢者の移動支援（躍動鍋山の自家用旅客運送事業）
- 事例⑨ 世代間交流施設「ほほ笑み」
（地域の小さな拠点として3者が共同運営）
- 事例⑩ おねがい会員・まかせて会員 登録名簿（要支援者と支援者）
- 事例⑪ 黄色い旗運動（高齢者の見守り）
- 事例⑫ 配食事業（配食グループ「いい〜飯会」）
- 事例⑬ アヨさん体操（農作業と高齢化による腰痛や膝痛を予防）
- 事例⑭ どぶろく&田舎料理レストラン運営事業

事例⑮ 体験型宿泊施設での交流活動（廃校活用による交流活動の促進）

⑭ 質問事項と回答

- Q. スペチャレ資金について。
A. 中高生 300 万円、大学生 200～300 万円、一般は 5 件で 1,000 万円。
Q. 自治システムの職員はどのような人を採用しているのか。
A. 事務局長は 60 代～、主事は 30～50 代など、公民館で働いている人や様々な経歴の人を採用している。
Q. 地域との合意形成について。
A. 旧小学校区とすることで比較的合意形成しやすい面がある。
Q. 子どもチャレンジのコーディネーターについて。
A. 県立高校 3 校をコーディネーターが巡回指導し、学校の活動をサポート。
Q. 企業チャレンジはどのくらいの事業が立ち上がっているのか
A. 40～50 の事業が立ち上がっている。（本業もあるが）
Q. 企業チャレンジでのヤマハ発動機のタクシー事業は距離と料金は。
A. 料金は無料～300 円程度（月額定期¥1,000～1,500）で、距離は最寄駅から 2 km のエリアを運行。料金をとると乗車率が減る傾向にある。
Q. ボランティアドライバーについては今後どうするのか。
A. 地域ニーズはあるため、どのように継続確保していくかは課題である。
Q. 一般のタクシー会社との連携は？
A. 別エリアでタクシー会社と連携して実証実験中。今は、検討中。

(2) 島根県美郷町「空の駅構想」について

【美郷町の概要】

美郷町は平成 16 年 10 月 1 日、邑智町と大和村が合併し誕生。
美郷町は島根県のほぼ中央に位置し、中国地方で最も雄大な河川、江の川が町を貫流し、両岸には中国山地の緑が連なり、古くは石見銀山街道の一部として栄え、江の川の恵みとともに発展してきた。現在も伝統文化や自然を多く継承している。町内には多くの温泉があり、遠方から訪れる方々も数多く、江の川を活用したカヌーや火振り漁、鮎釣りなどの観光も人気がある。特産品には、豊かな自然からの恵みを活かしたものが多く、特にマタタビや蕎麦・アユ・イノシシなどがある。

【美郷町の地域特性】

■面積

総面積は 282.92 km²で、島根県の総面積 6707.294 km²の 4.2%にあたる。江の川の沿岸部及びその支流の侵食によって形成された急峻な地形が多いことから、総面積の大半を山林が占め、居住可能地の面積はわずか。

■地勢

美郷町内を中国随一の江の川（総延長 194km）が大きく蛇行しながら貫流している。江の川の沿岸部では、侵食によって急峻で起伏に富んだ地形になっており、その谷間や氾濫原に集落が形成されている。北西部には標高 200m 前後の平坦地、南西部には標高 300m 前後の丘陵地帯が広がり、東部には 400～700m の山々が中国山地へと連なっている。

【美郷町の現状と課題】

- ①高齢化比率 45%を超え高齢者は車がなければ買い物や通院が難しい。
・沿線の過疎化などを理由に公共交通機関(JR 三江線)も廃止された。

- ・中核病院もなく町外の病院へ通院する必要。
- ②集落が点在しているため今後は郵便・宅配事業者等による配送ネットワークの維持が困難になる恐れ。
- ③災害時の道路の損傷、通行止めによる孤立地域の発生や支援の遅れ。
 - ・H30.7豪雨により江の川流域で床上、床下浸水の大きな被害。
- ④長時間の大規模停電(ブラックアウト)への備え
 - ・令和元年9月台風15号により千葉県で長期大規模停電。

上記等の理由から、美郷町内の主要な避難所に太陽光発電整備と3日分の蓄電池を整備することになった。(防災拠点整備事業) 非常時の電源、ある意味平時では余剰となるこの電力を活かして、地域課題を解決できないか、という思案からドローンの活用に繋がっていったとのこと。

また、少子高齢化による慢性的な労働力不足と、将来的な美郷町の配達需要が減少する(=採算性の低い地域での配達事業の廃止)将来への見立てから、中山間地の物流の確保、ドローン物流が検討され、前述の防災拠点整備事業を行なった防災公園と避難所(公民館)を「空の駅」としてドローン物流の拠点駅に位置付けていく『空の駅構想』へと進められた。

中山間地が抱える現状と、予想される今後の課題に対応していく必要

【空の駅構想概要(コンセプト)】

- ①平常時の施設のランニングコストの縮減と大規模停電への備え
 - ・町内の避難所に再生可能エネルギー発電設備と備蓄設備を設置。
- ②将来的な物流形態の変化への対応(空の物流の確保)
 - ・設備整備拠点を利用したドローンによる配送の実証実験。
防災公園を発着駅として、各空の駅まで荷物を積んだドローンの試験飛行を実施し、「荷物に係る衝撃」「ドローンの電波状況」「電池交換の作業手順確認」等。
- ③農業、林業の担い手不足、災害時の状況把握等、様々な分野での活用を検討
 - ・農業、林業、物流、防災など各分野でのドローンの利活用を検討・推進

「災害に強いまちづくり」と「不便の少ないまちづくり」の構築を目指す

【空の駅 配送ネットワークの拠点及び中継点】

・美郷町防災公園①を拠点とし、町内の各公民館（②～⑥）を中継



6 所感

(1) 島根県雲南市「地方創生の取り組み」について

雲南市ではチャレンジ推進条例を制定し、市民の権利、市長の責務を明文化されているとおり、全体での取り組み姿勢に反映されていると感じた。その点は、子どもから大人、企業までも取り込み、市内全域を巻き込む事例として、子ども、若者、大人、企業の多くのチャレンジ事例が多数紹介され、それぞれが生き活きと活動している様子で窺うことができる。加えてチャレンジ資金やサポート体制を整えている点、小学校区域で地域自主組織を結成し、地域課題を住民自らが事業化して解決している点など感銘を受けた。さらに、雲南市が地域自主組織を結成し、課題に取り組む様子は、設置経過や交付金財源などの課題と合わせて、当市における自治会や行政区の在り方を考えさせられる一考となった。

(2) 島根県美郷町「空の駅構想」について

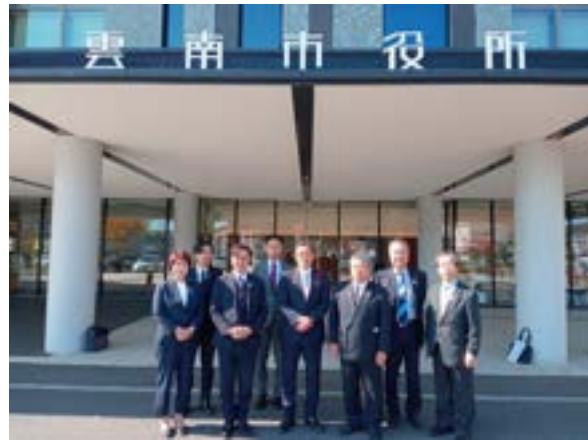
まだ実証実験の段階であるものの、『未来の物流』に挑戦する過程と自治体の姿勢を学ぶことができた。国も『空の産業革命に向けたロードマップ』に示している通り、新たな社会や技術の変革は一朝一夕で起こるわけではなく、その未来(ゴール)を見据えた取り組みへの一歩をいかに踏み出せるかが、将来の市民の生活に関わってくるのだろうと感じた。

また、ドローン操縦の担い手の問題や、雨風への対応が難しいこと等、課題は多いとのことであったが、一方で、空の駅構想に取り組んだことを機に、様々な分野への利活用という「横の展開」が新たに生まれていると話されていた点では、自治体の意識を変革するという、付加分の大きな成果をあげている様子が感じられた。

7 調査による石巻市への政策提言等について

(1) 地方創生について

雲南市が市内全域を巻き込み、全体で取り組もうとする姿勢は行政の取るべき重要な姿勢であり、子ども、若者、大人、企業が地域の課題解決へチャレンジする雲南市の目指す将来像は、石巻市にも重要な視点である。頑張る若者へのサポートとして雲南市が設立したチャレンジ資金制度のように、頑張る方々に対する支援体制も必要である。子どもや若者の多様なアイデアを取り入れ、若者が行政に参画、意見しやすい仕組みを取り入れることが必要であると提言する。



(2) ドローンの活用について

石巻市においても、離島、農山村地域、過疎地域等、美郷町と同じ課題を抱え、悩んでいる地域や市民がいることは明白である。所感でも述べたが、急激に新しい技術が生まれ、その技術が地域課題を解決してくれることを待つのではなく、その技術が生まれるまでの期間をどのように自治体として取り組んでいくかがより重要だと考える。今回のドローン配送の技術をはじめ、例えば自動車の自動運転技術が生まれるまでの間、高齢者等の移動課題にどう自治体として向き合っていくか、という過程が大切だと感じる。移動課題という点では石巻市はグリーンスローモビリティにも前向きに取り組んでいるが、その取り組みをゴールとせず、その先を見据えた道中であることを意識し、毎年度、よりよい方向に事業を展開していく必要性を感じている。美郷町はドローン配送の安全な飛行経路として、町内を流れる川の上空を有効活用していた。石巻市も川と共に在るまちとして、ドローンの利活用に適した土地柄である可能性もあるため、ニーズの有無を含めた全域の調査の実施を提言する。

8 調査経費

1,168,138 円 (内訳は別添資料のとおり)

9 添付書類

別添資料のとおり

調 査 経 費 内 訳 書

調査期間 2022 年 11 月 8 日 (火) ~ 11 月 19 日 (土)
 調査地 島根県雲南市 島根県美郷町
 宿泊費 (14,800 円×4 泊+3,000 円×4 日) ×7 人
 + (14,800 円×2 泊+3,000 円×2 日) ×6 人
 + (14,800 円×1 泊+3,000 円×1 日) ×1 人 =729,800(上限金額)

月 日	項 目	摘 要	金 額	備 考
11/8	調査費 (交通費、 宿泊費)	<交通費> ・飛行機(仙台~出雲ドリームフレックス) @13,830×7 人=96,810 円 ・ジャンボタクシー @22,000×1 台=22,000 円 ・三陸自動車道 @1,550×2 台=3,100 円 <宿泊費> ・ひらたメイプルホテル @7,200×7 人=50,400 円	96,810 22,000 3,100 50,400	
		小 計	172,310	
11/9	調査費 (交通費、 宿泊費)	<交通費> ・ジャンボタクシー @62,500×1 台=62,500 円 <宿泊費> ・東横イン松江駅前 @7,200×7 人=50,400 円	62,500 50,400	
		小 計	112,900	
11/10	調査費 (交通費、 宿泊費)	<交通費> ・ジャンボタクシー @113,050×1 台=113,050 円 <宿泊費> ・萩ロイヤルインテリジェントホテル @6,500×7 人=45,500 円	113,050 45,500	
		小 計	158,550	

月 日	項 目	摘 要	金 額	備 考
11/11	調査費 (交通費、 宿泊費)	<交通費> ・ジャンボタクシー @77,510×1台=77,510円 <宿泊費> ・萩ロイヤルインテリジェントホテル @6,500×1名=6,500 ・スーパーホテル宇部 @9,800×6名=58,800	77,510 6,500 58,800	※11月11日より、新型コロナウイルス感染後の調査費 萩ロイヤルインテリジェントホテル宿泊者 (宇都宮議員) スーパーホテル宇部宿泊者 (西條議員、後藤議員、阿部議員、山口議員、我妻議員、谷議員)
		小 計	142,810	
11/12	調査費 (宿泊費)	<宿泊費> ・スーパーホテル宇部 @9,800×6名=58,800	58,800	スーパーホテル宇部宿泊者 (西條議員、後藤議員、阿部議員、山口議員、我妻議員、谷議員) 宇都宮議員は新型コロナウイルス感染により、別途ホテル療養
		小 計	58,800	
11/13	調査費 (宿泊費)	<宿泊費> ・スーパーホテル宇部 @9,800×6名=58,800	58,800	スーパーホテル宇部宿泊者 (西條議員、後藤議員、阿部議員、山口議員、我妻議員、谷議員)
		小 計	58,800	
11/14	調査費 (宿泊費)	<宿泊費> ・スーパーホテル宇部 @9,800×1名=9,800	9,800	スーパーホテル宇部宿泊者 (西條議員) 後藤議員、阿部議員、山口議員、我妻議員、谷議員は新型コロナウイルス感染により、別途ホテル療養
		小 計	9,800	

月 日	項 目	摘 要	金 額	備 考
11/15	調査費 (交通費)	<交通費> ・飛行機(大阪/伊丹~仙台)日本航空 @15,630×1人=15,630円 ・タクシー(宇部相互タクシー) @7,970×1台=7,970円 ・新幹線(新山口駅~新大阪駅) @12,320×1人=12,320円 ・リムジンバス(新大阪~伊丹空港) @510×1人	15,630 7,970 12,320 510	PCR検査で陰性が確認できたため、西條議員帰石。
		小 計	36,430	
11/18	調査費 (交通費等)	<交通費> ・飛行機(福岡~仙台フレックス) @51,400×2人=102,800 ・新幹線(新山口駅~博多駅) @5,910×2人=11,820 ・三陸道(仙台空港~鳴瀬奥松島) @1,550×1台 ・駐車場代 @6,600×1台	102,800 11,820 1,550 6,600	PCR検査で陰性が確認できたため、阿部議員、宇都宮議員帰石。
		小 計	122,770	
11/19	調査費 (交通費等)	<交通費> ・飛行機(福岡~仙台フレックス) @51,400×4人=205,600 ・ガソリン代 @1,893×1台=1,893 ・駐車場代 @7,200×1台=7,200 ・地下鉄(博多駅~福岡空港駅) @260×2=520円 @260×2=520円 ・新幹線(新山口駅~博多駅) @5,170×2=10,340円 @5,170×2=10,340円 ・三陸道(仙台空港~鳴瀬奥松島) @1,550×1台=1,550 ・タクシー(山口交通) @5,490×1台=5,490 @5,570×1台=5,570	205,600 1,893 7,200 520 520 10,340 10,340 1,550 5,490 5,570	PCR検査で陰性が確認できたため、後藤議員、山口議員、我妻議員、谷議員帰石。
		小 計	249,023	

月 日	項 目	摘 要	金 額	備 考
11/20	交通費	<交通費> ・ガソリン代 @3,500×1台=3,500	3,500	
		小 計	3,500	
	その他経費	<キャンセル料> ・航空券キャンセル料 @2,670×7人=18,690 ・航空券キャンセル料 @440×6人=2,640円 <飛行機> ・11/11 福岡～仙台航空券 @44,940×7人=314,580 キャンセル -314,580 <その他> ・旅行取扱料金 @550×7人=3,850 <視察先お土産> 10/26 ・かまぼこ(栗野蒲鉾店) @5,587×3=16,761円 <文書郵送> ・郵便 10/26 @84×3通=252円 11/24 @84×3通=252円	18,690 2,640 314,580 -314,580 3,850 16,761 252 252	
		小 計	42,445	
		合 計	1,168,138	